

事業名 世代間交流事業「こども交流カフェ」

〈拠点〉中川児童館

対 象 小学生～高校生

事業内容

毎週土曜日に、併設している福社会館の会場で開催しています。2016年度で5年目になります。児童館の子どもたちが店員となり、カフェを運営し、主に福社会館の利用者さんに向けてコーヒー・お菓子などを出しています。

閉店後は子どもたちが課題を持ち寄ってミーティングを行い、主体的に考え行動することで自らの力を発揮し、思いを実現する体験を積み重ねています。常連の利用者さんとも、すっかり顔なじみになりました。地域の中でつながりを生み、たくさんの方が子どもたちを見守ってくれる環境づくりの一翼も担っています。

事業のポイント

- ・実務的経験を重ねることで、地域の方々とのコミュニケーションを通して運営力や表現力・プレゼン力・配慮する心くばり等が自然と身につく。
- ・多世代の子どもたちが力をあわせて運営する中で、主体的に子ども同士の学びあい、教えあうしくみが構築される。
- ・地域社会の一員として、子どもたち自身の役割・立ち位置を確認できる場（居場所）である。

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

- ・多様性を尊重する力
- ・社会の一員として、社会に関わる力
- ・相手の立場にたってものごとを考える力

エピソード

「相手の気持ちを考える」

子どもが主体的に運営していくカフェということでスタートしましたが、始まった当初集まった子どもたちは、やる気はあるけど、遊びの延長な感覚があり、遊んでしまったり、子ども同士意見が合わずけんかになったり、福社会館のお年寄りから、「騒がしくて落ち着けない」「しっかりやりなさい」と怒られてしまうことばかりでした。直接お年寄りから注意を受けることで、子ども自身が気づいていくきっかけになっていきました。また、どんなカフェにしたいか、お年寄りにどんなふうに過ごしてほしいかということをお話し合いながら、カフェを通して、相手のことを考える気持ちが育っていき、子ども同士で注意しあえるようになったり、お年寄りとも仲良くなっていきました。今ではすっかり顔なじみになり、地域の中で顔の見える関係ができています。

「役割を知る カフェマイスター」

カフェにはそれぞれ役割分担があります。コーヒーを作る人、運ぶ人、チケットを扱う人、呼び込みをする人。この役割の中で人気なのはコーヒーづくり。誰がコーヒーを作るかでもめることもしばしば。しかし、コーヒーが作ればカフェができるのかというとそうではありません。それぞれに意味があり、1つ欠けると運営は成り立たなくなってしまいます。子どもたちがそれに気づくことができるよう模索した結果、カフェマイスターという制度を作ることになりました。

それぞれの役割を行ったごとに、ポイントがもらえ、すべての役割をこなした子には、カフェマイスターの称号がもらえます。これを導入したことにより、1つの役割に集中することがなくなり、今回やりたいことができなくても別の役割に切り替えたり、ある役割はやったことがないから、やってみようという気持ちが持てるようになっていきました。

全体のバランスを考える視点を持てるようになり、それぞれの役割があることで、子どもたちが中心となって運営ができるようになりました。



